



教育委員会より

「多久から発信！SDGs」

「戦争を知る必要性」

私たち9年生は、修学旅行で広島を訪れました。そこで被爆された人のお話を聞き、原爆ドームを見学しました。お話の中には、爆心地の近くで大げがをした家族のことがあり、私はとても胸が苦しくなりました。もしこれが自分や大切な人に起こったらと思うと、戦争は絶対にあってはならないと強く感じました。

原爆ドームには、今も戦争の傷あとが残っていました。私はその姿を見て、戦争は一瞬で多くの命や日常、未来まで奪ってしまうのだと実感しました。そして、戦争の悲しさを知るのは、同じ過ちをくり返さないために大切だと思いました。

私たちは、この修学旅行で、原子爆弾や戦争をとて恐ろしいと思いました。私たちが広島で学んだように、できるだけ多くの方がこの戦争について知る必要があると思います。そうすることで、世界は平和に近づいていくと思います。



東原彦舎中央校

9年3組 紙谷 薫
9年3組 宮口 樹里

連載

多久市の指定文化財(16)

多久家資料および後藤家文書

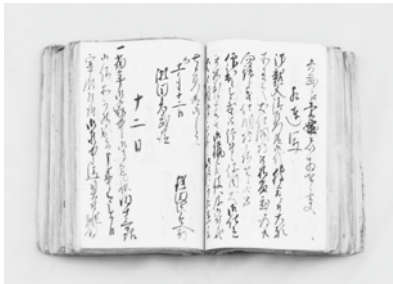
多久町一九七五番地(郷土資料館)

多久家資料は近世の多久領主多久家(後多久家)に伝わり、11代領主多久茂族の孫にあたる多久龍三郎氏から昭和33年に市立図書館へ寄贈されました。鎌倉時代末期から江戸時代末にかけての資料の総数は全3320点を数えます。文書類や系譜、絵図、典籍等で構成される資料群で、中でも多久邑の執政所(御屋形)において領内の事柄が日々記録された「御屋形日記」「役所日記」は、多久の近世史研究の基礎資料といえます。

後藤家文書は武雄後藤家に伝えられた平安時代末から江戸時代初期にいたる文書類全102点で、昭和49年に寄贈されました。現在ともに多久市郷土資料館に所蔵保管されています。

これらの資料の中の特にな近世初期の文書類は佐賀藩創成期を知る上で極めて価値の高い武家文書であり、両資料を合わせて昭和53年に県重要文化財に指定されています。多久領祖龍造寺長信をはじめ歴代の多久領主肖像画や古地図等が含まれるほか、「御屋形日記」等の日記類は、有志の方々により解読と研究が継続されています。

(教育振興課)



▶「御屋形日記」



▶資料の保管状況(郷土資料館)

市民文芸

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

- ◆ ひそやかに幼日の時もどしつづつ
父母のみ墓に春の花さす
川浪 信子
- ◆ 山里にツワブキ若葉 みつけたり
春を味わう夕餉楽しみ
梶原恵美子
- ◆ 帰省の子が富士山写真を探しあて
幼き頃の表情になり
尾形 節子
- ◆ 仕方なく生きていくのをやめた時
僕は命に意味を見つけた
野崎 隆幸
- ◆ 農止めしおとうとの田を継ぎくるる
竹馬の友に謝しつつ米研ぐ
浦野 嘉恵

俳句 《大石ひろ女選》

- ◆ 雪溪に時を忘るる 黒部峽
武富 律子
- ◆ 短夜や昨日の夢の続きをば
本村 則子
- ◆ 六月のたちまち埋まる 予定表
富樫 明美
- ◆ 走り梅雨下校の鞆重くなり
大谷 和
- ◆ リハビリの塗絵の余白 緑さす
大石ひろ女

川柳 《多久川柳会 互選》

- ◆ 道草のれんげに休むランドセル
小副川ヨシエ
- ◆ 老い一人一品欲しい おごちそう
古賀ひろこ
- ◆ 温暖化戦争などはしておれぬ
大谷 和
- ◆ 暑い夏アイスアイスで胃を冷やす
田代えみこ
- ◆ 誕生日葉もひとつ増えていた
井上 東子